



令和5年1月

「きょうだい児」

昨年末に祖父の1周年忌があり、久しぶりに兄弟が顔を合わせる機会がありました。私は、3人兄弟の末っ子で兄弟仲は特に悪くは無いのですが、3人とも用事が無ければ連絡をしないタイプなので、この様な場合は貴重な機会になります。いくら年齢を重ねても、兄弟同士の距離感や関わりは、幼い頃に築かれた物がそのまま踏襲をされていくので、不思議な関係だと改めて感じさせられます。（親子も一緒に子どもはいつまでも子ども扱いになってしまいます）

映画「ギルバート・グレイプ」(1993年)

ブレイク前のレオナルド・ディカプリオが障がいがある弟役、ジョニー・デップがその兄役で共演をした作品で、日本では1994年に公開をされています。当時、私は中学生でしたが、兄役のジョニー・デップが、家族を愛するが故に、様々な事柄に苦悩をして行く姿に心を動かされた記憶があります。

兄弟だからこそ「素直に受け入れられる部分」と「あえて受け入れなければいけない部分」の境界は、その時の年齢や家庭の状況、関係性によって違ってくるのだと思います。時に認めて、時に反発をして、時に諦めて、様々な想いを抱えながら受け入れて行く。その過程というのは、当事者ではない私には分からないのかもしれませんが、私たちの支援は「発達支援」だけではなく「家族支援」という部分も重要な物になります。

「きょうだい児」の支援やサポートに答えはありませんが、何が出来るのかを考え続けなければいけない課題とも言えます。

参考

「ちづる」

<https://chizuru-movie.com/>

障がいがある妹と家族を1年間撮影して制作された映画。

「きょうだい児」は孤立をしやすい環境にいますが、発達したインターネットコミュニティにより繋がりがしやすい時代になっています。課題としては、ネット環境にアクセスを出来にくい、より若い世代をどの様に地域の中でケアをして行くのか。

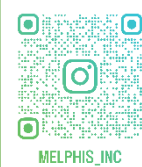
Sibkoto (障がい者のきょうだいの為のサイト)

<https://sibkoto.org/>

日本財団

<https://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2022/81371/young-carers>

児童通所課 嵯峨憲司





活動報告



12月



ぱれっと 合同 クリスマス会

毎年恒例の行事
今年もぱれっとの
子ども達との
交流を深めました

ゲーム大会

サラダバー

焼きそば

からあげ

モップ掛け

机の汚れ

大掃除

ゴミ出し

掃除機

フィルター

壁の汚れ

外窓

1年間の汚れを
落としました